



## 分科会 2 薬学教育は新たなステージへ ～医療人として求められる薬剤師の基本的資質～

10月7日(日) 15:00～17:30 第2会場(アクトシティ浜松 コンgressセンター 3F 31会議室)

W-02-04

### みんなで支える実務実習

山本<sup>やまもと</sup> 勝央<sup>まさひろ</sup><sup>1)</sup>、賀川 義之<sup>2)</sup>、前田 利男<sup>3)</sup>

- 1) 社団法人静岡市薬剤師会、2) 静岡県立大学薬学部薬学科臨床薬学分野、  
3) 静岡県立大学薬学部薬学科薬局管理学分野

実務実習を始めるにあたり、会員から「一薬局完結型を理想とする6年生実務実習のカリキュラムを熟読したが、この内容を一つの薬局でこなす事は困難である」との声が、寄せられました。平成22年より静岡市薬剤師会では、静岡県立大学の学生を中心に年間40数名を20数軒の薬局にて受け入れておりますが、この数は県立大学生のほぼ半数にあたります。静岡市薬剤師会では、多くの薬局で、充実した実務実習を行うために、同年、『6年制実務実習受入調整機構』を立ち上げました。当委員会が行っている主な、サポートは、学生に対しては、集合研修、施設見学の引率・概説、実施困難な実習項目をサポート薬局にて行うための仲介等です。薬局製剤の製造販売業の許可のない薬局に対しては、製剤キットの貸出す事もおこないます。集合研修としては「添付文書の読み方研修会」「学校薬剤師の役割、模擬薬学講座・検査機器のデモ」「緊急災害時における薬剤師の役割」「介護保険制度における薬局薬剤師の役割」「夜間電話相談のシステム概説」等を1回90分(1コマ)程度夜間に行っている。講師は基本的に各委員会のメンバーを中心に行っているが、外部講師として医薬品卸のD I担当薬剤師を依頼する事もある。施設見学としては「医薬品卸の見学・業務の解説」「静岡市急病センター」「静岡県地震防災センター」を実施し各委員会のメンバーが引率や解説を行っている。サポート薬局への実習補助を依頼した内容は「学校薬剤師の職務の見聞」「漢方製剤の調整」「OTCカウンター実習」「在宅訪問の同行」等である。初年度の実習が終了した昨年度、静岡県立大学では実習終了後、実習生および指導薬剤師に対してアンケート調査を実施した。実習への学生の満足度は高かったものの、私どもが想像していた以上に色々な問題点も抽出された。たとえば調剤薬局でOTCカウンター実習40コマが全部こなせているとはいえない。又逆に処方箋の少ない面分業薬局では学生から服薬指導の実践の場が少なく不満を訴える声も少なくなかった。実務実習も本年度で3年目に入ったが、認定指導薬剤師の数はほぼ足りているにもかかわらず、受入施設が減ってしまったのが最大の問題点といえる。コアカリキュラムを忠実にこなす事と日々の薬局業務とのギャップが大きい事が大きな原因のひとつといえるが、原則一薬局完結型が理想というのが本当に学生にとっても薬局にとっても良いとは言い難い。このような現況をふまえ静岡市薬剤師会としては、アンケート調査を実施し、受け入れ薬局の負担を減らすための座学での集団研修の追加や現在行われているサポートの見直しを検討していく予定である。又、学生と指導薬剤師が共に育つ為には、総合実習の最後に、学生と指導薬剤師で、グループ討議を行う事が、必要と考えている。